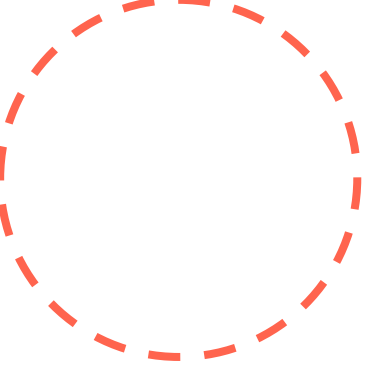
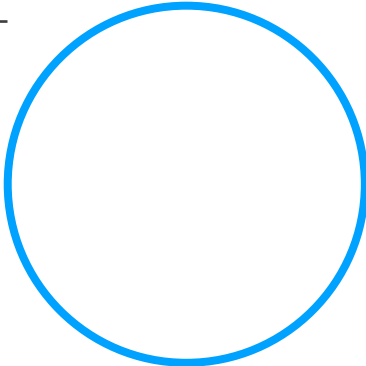
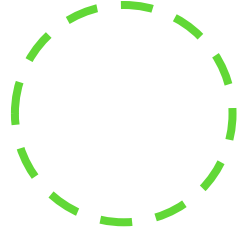


初任者研修の構造を知る①

ストレッチに着目するための
ストレッチ





配布資料の説明

○初任者研修で使用する資料をから抜粋し、本日の資料を作成しております。

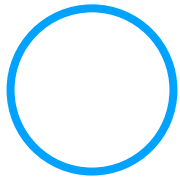
○初任者研修（演習時）シラバス（指導案）と資料及び研修テキストより、重要な演習ポイントを抜粋します。



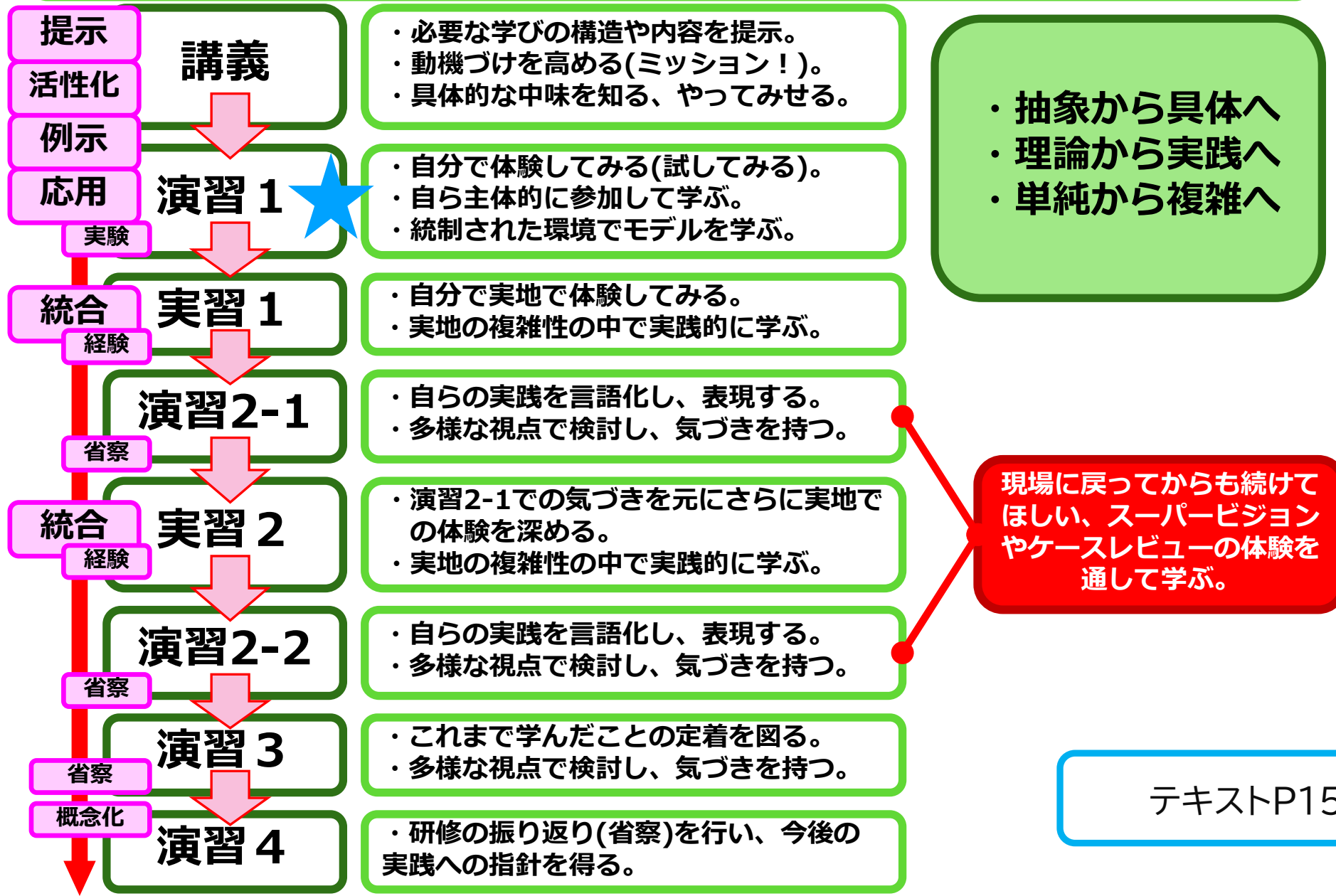
参考資料

○資料右上に ←このマークが記載された頁は、時間の都合上説明しません。

しかし、演習の流れでは重要であり、「研修ワーキング会議」などで確認をお願いします。



初任者研修の構造



初任者研修の構造と各科目の関連

具体化・統合化

講義

演習・実習

理論
理念

具体化・統合化

実践
実際

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
1日目	講義	1h	オリエンテーション 研修受講ガイダンス
		1.5h	① 相談支援の目的
		2.5h	② 相談支援の基本的視点
		1.0h	③ 相談支援に必要な技術

なぜ、そういう活動
(仕事)が必要なの？

どういう姿勢
で臨めばいいの？

提示
例示
活性化

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
2日目	講義	1.5h	障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス及びその他関連する法律等に関する理解
		1.5h	障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援(サービス提供)の基本
		1.5h	相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス
		1.5h	相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点
		0.5h	研修のまとめ

具体的に
どうするの？

テキストP282～283

		区分	時間	標準カリキュラムの科目	
3 日 目	演 習	演 習 1	6h	相談支援の実際 (ケアマネジメント 手法を用いた	受付及び初期相談並びに契約 アセスメント(事前評価)及びニーズ把握
4 日 目			3h	相談支援プロセスの具体的理	目標の設定と計画作成
			3h	解)	評価及び終結
			1h	実習ガイダンス	

例示
体験

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
	実習	1-1	相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関 する実習1【相談支援プロセスの実践①】
		2	地域資源に関する情報収集

応用
統合

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
5日目	演習	6h	実践研究 実践研究1(実践例の共有と相互評価1) 【アセスメント結果の検討(スーパービジョン の体験)】

省察

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
	実習	1-2	相談支援(ケアマネジメント)の基礎技術に関 する実習2【相談支援プロセスの実践①】

応用
統合

	区分	時間	標準カリキュラムの科目
6日目	演習	4h	実践研究2(実践例の共有と相互評価2) 【再アセスメント結果および支援方針(計画 案)の報告・共有(ケースレビューの体験)】
		6h	実践研究3(実践研究とサービス等利用計 画作成) 【ケアマネジメントプロセスの定着演習】
7日目	演習	2.5h	研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り

省察

概念化
定着

初任者研修 演習 1 (1日目) 流れ

	小单元	科目のねらい	演習のポイント	内容	時間
1	受付及び初期相談並びに契約	◆基本相談支援の実際について習得する ◆受付や初期相談（インテーク）、契約の各場面で求められる実践的な技術を修得する	①利用者及びその家族との信頼関係構築の重要性を理解する ②契約に関する制度上の位置づけや留意点について理解する ③受付及び初期面接の場面における相談支援の視点と信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について模擬面接を通じて体験する。	●2人ペアでアイスブレイクを兼ねた自己紹介 ●2人ペアで日受容的な態度の面接、受容的な態度の面接を体験	55分
2	アセスメント（事前評価）及びニーズ把握	◆利用者の主訴を明確にし、本人・家族等からの情報収集を行う技術を修得する	①アセスメントの意味とその視点を理解する	●アセスメントのための面接場面デモを見ながら、アセスメント票を記入する	40分
3	アセスメント（事前評価）及びニーズ把握	◆相談支援専門員としての専門的な判断の根拠を説明できる技術を修得する ◆アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を修得する	①アセスメントの意味とその視点を理解する ②情報収集とニーズ整理の視点を体験する	●本人が表明しているニーズを書き出す（個人ワーク） ●ストレングスに着目するためのストレッチ（個人ワーク） ●本人像の共有（グループワーク）	75分
4	アセスメント（事前評価）及びニーズ把握	◆相談支援専門員としての専門的な判断の根拠を説明できる技術を修得する ◆アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を修得する ◆グループ討議を活用し、チームでの支援の重要性と効果、グループ討議の基礎的技術を体験的に理解する。	①アセスメントの意味とその視点を理解する ②情報収集とニーズ整理の視点を体験する ③チームアプローチの重要性とその方法について体験する	●ニーズ整理票を使って、インテーク、アセスメント、プランニングについて学ぶ、（個人ワーク、グループワーク）	175分
	まとめ		振り返りシートの記入、2日目へのつなぎ		10分

【復習】 相談支援の目的

相談支援の目的

- ① 本人のその人らしい地域での暮らし
 - 1) 障害者の地域生活支援
 - 2) 障害者の自立と尊厳の確保、社会参加
 - 3) 自己決定(意思決定)への支援・権利擁護、エンパワメント、リカバリー
 - ② 障害のある人を含めた誰もが暮らすことのできる地域づくり
- = 地域を基盤とするソーシャルワーク

研修で、最初から最後まで繰り返しお伝えすることです。演習をしていると判断やコメント、受講者への助言に迷うことが多々あります。そんな時には、必ずここにヒントがあります。

演習講師の役割
相談支援に必要な価値・
知識・技術を伝える

ケアマネジメント手法においても変わらない。

【復習】相談支援の基本的視点

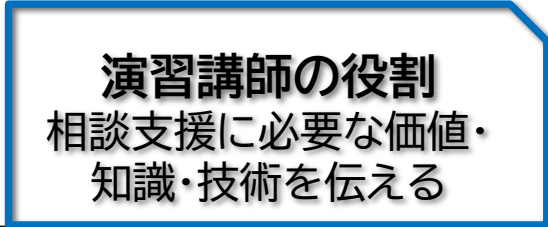
相談支援の基本的視点：

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護(アドボカシー)、スティグマ
- ⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
- ⑧ チームアプローチ、多職種連携

研修で、最初から最後まで繰り返してお伝えすることです。演習をしていると判断やコメント、受講者への助言に迷うことが多々あります。そんな時には、必ずここにヒントがあります。

演習講師の役割
相談支援に必要な価値・
知識・技術を伝える

ケアマネジメント手法においても変わらない。

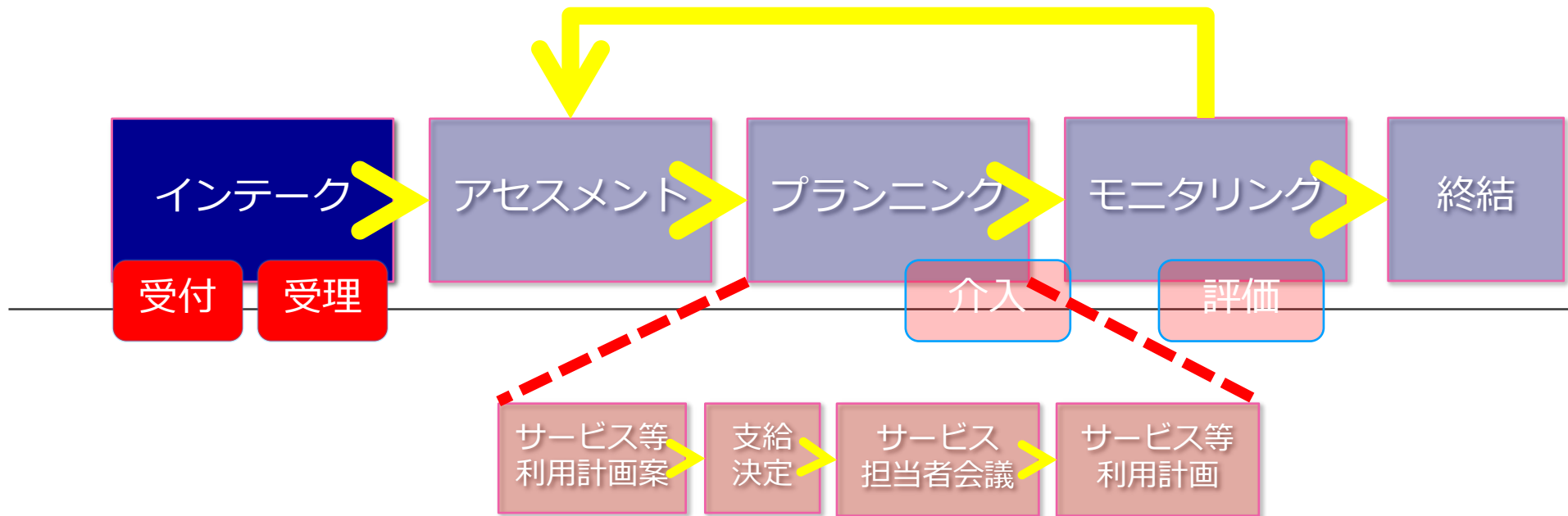


【2】 関係性の構築と相談面接技術

主訴の把握と共感的理解

§ 1 受付及び初期相談並びに契約 (関係性の構築とインテークアセスメント)

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

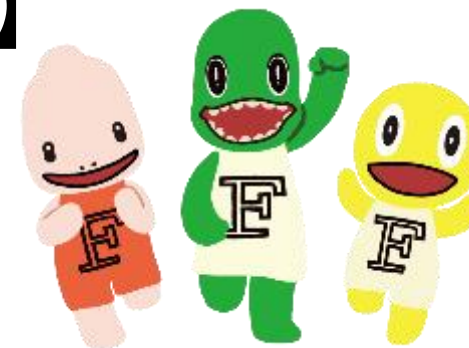


ここからの演習のポイント

テキストP204

1. 利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性を理解する。
2. 契約に関する制度上の位置づけや留意事項について理解する。
3. 受付及び初期面接の場面における相談支援の視点と信頼関係を築くための技術（受容、共感、傾聴）について模擬面接を通じて体験する。

【自己紹介・アイスブレイク】



a) 名前と所属

b) 「自分の目標とその理由」

- ・ 内容は問わない(仕事でもプライベートでも)
- ・ あまり重くない内容。

① 個人でWS1①に記入し準備。(4分)

② 2人1組となり、共有。(1名2分×2名=4分)

全体共有【5分】

**あなたの目標と利用者の目標
人生において違いがありますか？**

主訴の把握と共感的理解 その基盤となる相談面接技術

【模擬相談面接体験①】

「自分が今目指していること／取り組んでいることを実現するために」
について話します。

- ・ 内容は問わない(仕事でもプライベートでも)
- ・ あまり重くない内容。

① 個人でWS1②に記入し準備。 (4分)

② 2人1組となり面接(相談者／相談員)。

★目を合わせず、不誠実な態度で

1分30秒×2名 (3分)

【模擬相談面接体験②】

「自分が今目指していること／取り組んでいることを実現するために」
について話します。

- ・ 内容は問わない(仕事でもプライベートでも)
- ・ あまり重くない内容。

③ 2人 1組となり面接(相談者／相談員)。2分×2名 4分

★自分の考える、よい相談面接技術で

④ 体験①と体験②の違いをペアで共有。3分

【三二講義】 初期相談のまとめ

継続的な学びが必要です。
- 経験と概念化 -

この研修で仕事ができるようになる
全てが網羅されているわけではありません。

この研修を修了しさえすれば、現場に戻ってすぐ
仕事ができるようになるわけではありません。

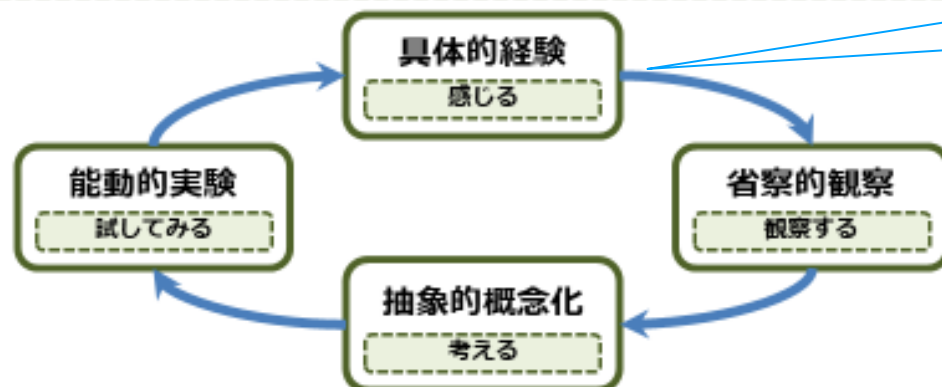
参考：コルプの経験学習モデル

【研修】でもこのサイクルが重要

・受け身で情報(知識)を一方通行で受け取るだけでも、単に発散するだけでも効果は薄い。

【学び】全体でもこのサイクルが重要：研修が終わってからが重要

・研修も時に必要、現場での実践とその振り返り(スーパービジョン等)も重要。



体験する
(2つの模擬面接)

省察する
(振り返る)

§ 1 受付及び初期相談並びに契約 (関係性の構築とインテーク・アセスメント) 初期相談の留意点 (1)

- **話を聴き、主訴を把握。★対面での関係が基本**
 - ・まずは本人と会う → 直接本人像や本人の意向を確認。
- **情報の収集と分析 ★アセスメントは初回から始まっている**
 - ・相談員自身の印象（主観的） ★どのような情報が必要でしょうか？
 - ・本人・家族・環境の状況（いわゆる「客観的事実」）
 - ・本人／家族の心理（障害受容含め）
 - ・本人のゴール（目標） など

- ・「面接は『おしゃべり』ではない。」
- ・（支援者が）意図を持って
 - ・場面を構成し、
 - ・話を聴き（傾聴）、
 - ・話（や課題）を整理し、
 - ・一緒に向かうゴール（課題）を共有する。

トレーニングや
準備が必要

技術研鑽
スーパービジョン

§ 1 受付及び初期相談並びに契約 (関係性の構築とインテーク・アセスメント) 初期相談の留意点 (2)

- 前提となるのは良い関係性
= エンゲージメント(強い信頼関係)、ラポールの構築



支援者自身（あなた）の目標と利用者の目標には、違いがありますか？

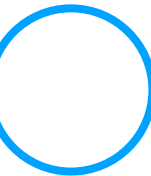
関係構築に
求められる力

- ① 価値： 共感的理解、生活者視点による本人理解
- ② 技術： 相談面接技術

- ・ 「面接は『おしゃべり』ではない。」
- ・ (支援者が) 意図を持って
 - ・ 場面を構成し、
 - ・ 話を聴き（傾聴）、
 - ・ 話（や課題）を整理し、
 - ・ 一緒に向かうゴール（課題）を共有する。

トレーニングや
準備が必要

技術研鑽
スーパービジョン



§ 1 受付及び初期相談並びに契約 (関係性の構築とインテーク・アセスメント) 初期相談留意点のまとめ

留意点のまとめ

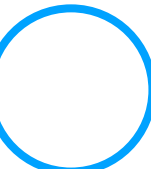
★これまでの学習事項以外にも初期相談で留意すべきことがあります。

- ① 主訴の把握
- ② 相談の経緯、支援経路、課題感の主体
- ③ スクリーニング ・ 受理判断 ・ 緊急性の判断 ・ 支援方法
- ④ 事業説明 ※対等性と利用契約
- ⑤ 個人情報保護 ※守秘義務とプライバシー尊重
- ⑥ 初期段階における関係性構築

- ・ 記録
- ① 事実(本人の言葉・事実)
- ② 自身の所見
- ③ 今後(の見通し)

トレーニングが必要

技術研鑽
スーパービジョン



参考：総合的・多角的なアセスメントの枠組み例（厚生労働省ケアガイドライン）

参考資料

一次アセスメント票				受付No.	作成者氏名	作成日	
ふりがな	性別	住所	(〒 -)				
氏名							
生年月日	歳	連絡先					
本人の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと							
ここからはじまる。ここを一緒に作り出す。							
家族の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと							
希望する一日の流れ							
本人							
平日							
休日							
6	9	12	15	18	21	24	3
生活状況[普通の1日の流れ]							
本人							
平日							
休日							
6	9	12	15	18	21	24	3
[その他の1日の生活の流れ] ※いくつかの1日の生活があれば、別紙に記入							
本人							
6	9	12	15	18	21	24	3
本人の概要	生活歴（病歴含む）						
	【過去(これまで)】も大事です。						
	・どのように暮らしてきたか。 ・どのような経験をしているか。 ・どう育ち、どのような価値観をもっているか。など ¶ひとりひとりの物語があります。 (ライフヒストリー、ライフストーリー) ¶いきなりは聞きにくいですが、本人像の理解にも役立ちます。						
	[ジェノグラム]						
パッと書けるようにしましょう。 書き方の本はたくさんでいます。							
[エコマップ]							
【人間関係】【社会とのつながり】を幅広く捉えます。 ¶本人にとっての「地域」とはなにかをつかみます。							

利用者の状況					
項目	状況・意思			支援者の気づき	
	現状	本人の希望	本人の選好	記入者	記入者以外(専門的アセスメントを含む)
1 生活基盤・日常生活に関する領域					
住環境					
経済環境					
2 社会参加に関する領域(教育、就労を含む)					
趣味・旅行・レクリエーション					
当事者団体の活動					
自治会への参加					
その他各種社会的活動					
就労					
3 コミュニケーションや意思決定、社会生活技能に関する領域					
意思表明	客観的事実やデータ	本人の表明	選好の解釈	記入者の解釈	その他の他者の解釈
意思決定					
他者からの意思伝達の理解		本人の(推定)意思			
コミュニケーションツールの使用(電話、FAX、パソコン、タブレット、インターネット)		他者の解釈が介在			
対人関係					
屋外移動やその手段(長距離、遠距離)					
金銭管理					
4 日常生活に関する領域					
身辺のこと					
調理					
食事					
入浴					
清掃・整理整頓					
洗濯					
書類整理・事務手続き					
買い物					
5 健康に関する領域					
体力					
健康状態					
医療機関利用状況					
医療費・健康保険					
障害					
6 家族支援に関する領域 ※必要に応じて加除する。					
父母					
姉					
姪					
対応者所見のまとめ					

意図をもって集めた情報を整理します。
(情報の取捨選択から整理と分析です。)

・多角的な検討や必要な視点が落ちていないかの確認に有効です。
・網羅すること(埋めること)がいいアセスメントではありません(あまりに聞けていないのも困るが)。

ここからはひとりのモデル(仮想)
の人物の支援を通して学びます。

【そういうわけで(どういうわけだか…)】

事例の概要を整理しました。

事例概要（春男さん）の配布

ここからはひとりのモデル(仮想)
の人物の支援を通して学びます。

【そういうわけで(どういうわけだか…)】

事例の概要を整理しました。

事例概要（春男さん）の配布

少しだけ、場面説明を。

【5分】



氏 名 鈴木 春男（すずき はるお）さん

性 別 男性

年 齢 30歳

家 族 母親（60歳、会社員）との二人暮らし

療育手帳 B1

【現在受けているサービス】

障害基礎年金 2級

重度障害者医療無料化対策事業

【生活歴】

本人は、幼少時に父親を交通事故で失い、以後母との2人暮らし。〇〇特別支援学校高等部卒業後、実習にも行ったオーシャン商店に就職（個人経営の食料品店。主に食品の陳列作業）。単独で、バス通勤していた。

仕事ぶりは真面目だが、指示された内容の仕事しかできず、お客や雇用主、同僚とうまくコミュニケーションが取れず、不況の影響も受けて2年前に解雇される。その後、在宅生活。就職活動はしていない。

小遣いは自己管理しているが、つつい使用い込んでしまう。

困った時には、相談できる近所の人がいる。

【病歴・障害歴】

平成15年 中学3年時 療育手帳（B1）取得

【お住まいの地域状況】

ご自宅は持ち家で、駅前に位置し近くには総合病院、図書館、ショッピングセンター、商店街、コンビニ、映画館、公園などがある。また駅前からは市内各所へバスが発着しておりとても便利な場所である。市内には社会福祉行議会と22箇所の福祉サービス事業所があり生活介護、就A、就B、移行型、自立訓練、地活、居宅支援、通院等介助、相談支援など、全ての障害福祉サービスが提供されている。また地域自立支援協議会では地域課題を検討し、新たな仕組みや資源を活発に開発されている地域でもある。

自宅近所に「しおじさん」という方がおられ本人、母親共に交流がある。また民生委員は地域を大切にされ親切な方である

【相談受付時の情報】

母親が胃潰瘍の手術（2ヶ月ほどの入院を要する）が必要となり、1か月後に入院予定。入院中は本人の世話ができない。

母親はショートステイの利用を考えているが、本人の意思がはっきりしない。

母親は今後の生活も心配している。

本人は特別支援学校卒業後、8年間一般就労したが、2年前に離職。母親は就職してほしいと思っている。

【まずは_(とりあえず)】

_(ビール…ではなくて)説明をしません。

3 分間読み込んでください。



「インテーク・アセスメント面談」を運営する

本人の夢・希望の実現や課題の解決に向け、
必要な根拠（情報）をおさえる。

相談支援、はじめの一步。

インタビュー・アセスメント面接のイメージを掴む

- ・ 登場人物

- ・ 鈴木 春男さん
- ・ お母さん
- ・ 「私」（相談支援専門員）

インテーク・アセスメント面接のイメージを掴む

- ・ 登場人物

- ・ 鈴木春男さん
- ・ お母さん
- ・ 「私」 (相談支援専門員)

【デモンストレーション】

- スタッフによるデモを観察する。
- 自分が相談支援専門員としてアセスメントをとってるつもりでメモを取りながら観察する。
- ③アセスメント表 (様式 2 - 3) を記載する。



デモンストレーション インタビュー・アセスメント面談

参考資料



春男さんの母親

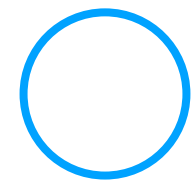
鈴木春男さん

相談支援専門員



ご本人との初回面談は対面が基本
しかし、コロナ禍での対面設定には正しい状況判断も必要
対面の場合、感染予防の配慮も大切です

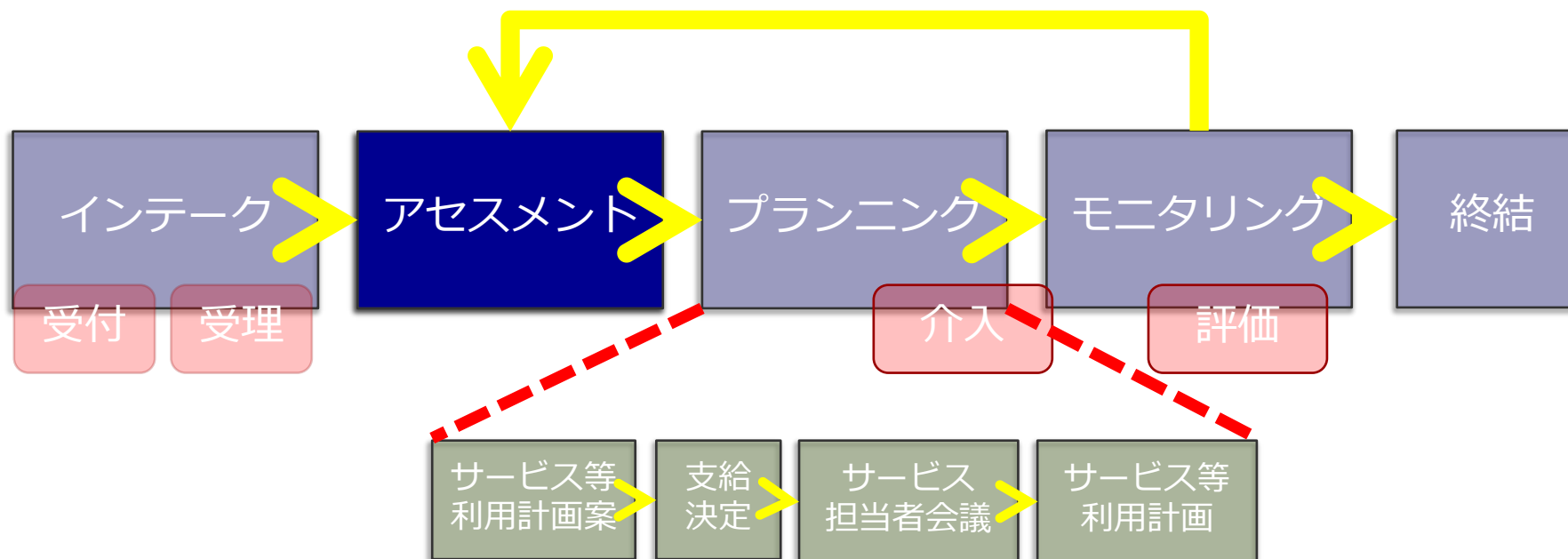
動画再生





§2 アセスメント（事前評価）及びニーズ把握

演習1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術



科目のねらいとここからの演習のポイント

[科目のねらい]

ワークシート②配布

- ◆相談支援専門員としての専門的な判断の根拠を説明できる技術を修得する
- ◆アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を修得する

[演習のポイント]

- 1.アセスメントの意味とその視点を理解する。
- 2.情報の収集とニーズ整理の視点を体験する。
- 3.チームアプローチの重要性とその方法について体験する。

演習講師の役割
相談支援に必要な価値・
知識・技術を伝える

それぞれの演習にはねらいとポイントがあり、テキストや指導案（シラバス）にも記載があります。
事前にテキストや指導案を読んで、ねらいとポイントをしっかりと理解しておく事前準備が大事です。

事例概要、一次アセスメント票

(スタッフ作成)

もう一度、
5分間読み込んでください。



【何を考えましたか？（個人ワーク）】

ワークシート2-①

- ・あなたがとらえた本人像をひとことで。
- ・あなたが考えたこと(感じたこと)を端的に。

記入してください。
箇条書きでかまいません。

—【5分】⇒本日は【3分】

アセスメントの視点の一つである、本人像の把握をします

アセスメントの復習

復習 アセスメント

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

本人の夢・希望の実現や課題の解決に向け、必要な根拠（情報）をおさえ、整理する。

- ・ 本人像（人となり）
- ・ 本人の夢・希望、解決したい課題。
- ・ それに向けて必要な状況把握
（本人や環境に関する多角的・総合的な情報）

- （1）情報の収集
- （2）情報の整理、分析（二ーズ整理）

復習 アセスメント

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

インテーク

情報の収集

アセスメント

ニーズの整理
(情報の分析)

広義のアセスメント

復習 アセスメントの留意点①

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

(1) 情報の収集

- ・面接技術（場面構成）と大きく関係する。
- ・生活者視点、本人中心、ストレングスなどの基本的視点を意識し、表出された言葉や選好の意味や背景を探る問いを多様に用意する。
- ・多様な手段や情報源：
 - 面接（言語・非言語）、経験の共有（見学、同行、体験等）、周囲からの情報収集など
 - 本人の言葉の背景・真意を理解する。
 - その前提となる本人像を多角的に捉える。

復習 アセスメントの留意点②

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

(1) 情報の収集 (続き)

- ・多角的・総合的に その視点例(ケアガイドライン)
→ 視点に基づいた整理票(アセスメント票)

※網羅的に票を埋めることがアセスメントではない。

※あまりに空白が多くても困るが、埋まっていないからダメ、ではない。

復習 アセスメントの留意点③

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

(1) 情報の収集(続き)

- ・特に留意すべき、その基盤となる価値

【本人中心、生活者視点】

【エンパワメント、**ストレングス**】

- ・障害・疾患、周囲の課題感に囚われすぎない。
- ・最善の利益、社会常識・規律に囚われすぎない。

※ (支援者の) 価値観の転換を図るリフレーミング

個人ワークでもグループワークでも実地教育でも受講生からネガティブな発言が出てくる場合があります。その時は、演習講師がリフレーミングを活用してストレングスの視点に着目できるように促してください。

リフレーミングによってストレングスに気付く

参考資料

当事者には多彩な顔を持つ。しかしその人に向き合うとき、

私たちはその人の病気や、問題の部分にだけ着目していないか？

いろんな角度から見る

援助者にとって一番のツールは「感じる自分」。

援助者の視点のフレーム（見方）が変われば、おのずと理解も変わる。

一般に**リフレーミング**はネガティブな視点のフレームをポジティブな視点のフレームに切り替えるときに使う技術。

困難とも思える状況の中に課題解決の活路を見出したり、欠点だと思っていたものの**ストレングス**を発見できることだってある。

- ・ 枠をはずしてみる（いかに既存の枠にとらわれているかを知る）
- ・ 言葉のむこう側にあるもの、表情の向こう側にあるものを想像する、
汲み取るチカラ、想像するチカラと創造するチカラ

糸賀一雄氏 「この子らに**世の光を**」ではなく
「この子ら**を**世の**光に**」という有名な言葉

次の言葉をプラスの言葉に変換してみよう

参考資料

例：時間にルーズである→マイペースである

- ・言われた事しかできない→ 指示があればできる
- ・小遣いをすぐに使い切る→ 買い物する事ができる
- ・家でダラダラしている→ リラックスすることができる
- ・何日も同じ服を着る→ お気に入りがある
- ・魚や野菜を食べない→ 細かいことをきにしない
- ・自分で洗濯をしない→ 好みがはっきりしている
- ・自分から掃除をしない→ 甘え上手
- ・コミュニケーションがとれない→ 洗濯してくれる母親がいる
- ・コミュニケーションが苦手→ 言われれば掃除ができる
- ・コミュニケーションが苦手→ コミュニケーションが苦手

ストレングスの視点

参考資料

ストレングスの視点の焦点は「病気（病理）」や「障がいそのもの」ではなく「可能性」

- その人が本来持っている強さ、健康な側面、得意なこと、潜在的な能力、暮らしていく中で獲得した技能、関心、コミュニケーション、日常生活上のノウハウ等
- その人を支えるプラスの環境のストレングスについての気づきと理解

※**ストレングス**は一見弱みに見えるものの他にも実は存在するなど奥が深いもの。強さへの気づきはその人の「自分らしさ」へ向かう推進力となる大事な社会資源への気づきともいえる。ネガティブ物語をポジティブな物語に切り替えることによって、ストレングスが見えてくる。（リフレーミング）

※『何とかしたい』という課題意識を持っている、本当はやめたいと思っている、と自身が課題意識を持っていることもストレングス。

復習 アセスメントの留意点①

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

(2) ニーズ整理

- ・ 本人の意思表示、客観的状況、支援者や周囲の判断を分けて考える。
(基本は本人の言葉や選好からはじまる。)
- ・ **援助者（自分）の判断の根拠**を可視化、言語化する。

【個人ワーク：もう一度読み込みます】

- ・まずは本人（春男さん）の言葉からはじめましょう。
- ・本人の表明している希望・意思をそのまま赤いふせんに書き出します。（1つの希望に1枚）。

赤ふせん 配布

箇条書きでかまいません。

~~【10分】~~⇒本日は【5分】

この演習の前にモデル事例の面接場面のデモを見て、アセスメントをとる演習があります。アセスメントを取ると、できないことが見えてきて、「支援しなくては。治してあげなければ」という発想になり、すぐにサービスと結びつける発想になりがちです。アセスメントで支援者主導に傾きかけた意識をこの演習で、相談支援（ケアマネジメント）は本人の言葉から始まること（本人主体・中心）と相談支援の2つの目的と8つの視点に戻していく大切な演習です。

このように、演習講師は、演習と演習のつながりを把握し、個人ワーク、グループワークともに、なんのためにやるのか、今やっていることが次のどこにつながっていくかをしっかりと理解しておくことが大事です。

【基盤となる価値を確認しましょう】

- ・ アセスメントの視点を踏まえた読み込みができていたか確認し、ワークシート2-①は適宜修正します。

リフレーミングも活用

- ・ 本人のストレングスに着目しましょう。
ワークシート2-②に記入します。箇条書きでかまいません。

箇条書きでかまいません。

—【10分】⇒本日は【5分】

※作成したワークシート2は、この後の演習で何度も使用します。

アセスメントの視点

- ・ 本人像や本人の夢や希望、解決したい課題の把握する
- ・ その背景の意味や価値を探るための問いをもつ
- ・ 多角的に捉えるために多様な手段や情報源を活用する

【使用するもの】

- ・ 事例概要
- ・ スタッフ作成の一次アセスメント票
- ・ 個人ワークで作成したワークシート2



演習講師のポイント

グループワークを成功させるカギは個人ワークの出来次第

個人ワークでは、机間巡視を積極的に行い、進捗確認や手が止まっている受講生へのアドバイス、取り組み内容が間違っている受講生への早めの修正を行う。

受講生ひとりひとりのことを知らなければ、助言や指導はできません。

受講生の課題や特性をアセスメントしましょう。

受講生のストレングスに着目

演習講師は、受講者の「いいところ探し」を積極的に行い、そこで見いだした強さやよいところを受講生に伝えるとともに、演習に活かしていくことが求められています。受講生は、自分のよいところを認めてもらい、がんばっていることに対して演習講師が共感的に受けとめてもらえることで、受講生は物事をポジティブに捉え、前進していく力が与えられます。

あらためて確認しよう

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

相談支援の目的

- ① 本人のその人らしい地域での暮らし
- ② 障害のある人を含めた誰もが暮らせる地域づくり

相談支援・ケアマネジメントの基本的視点：

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護(アドボカシー)

インタビューで収集した情報を整理していきます

【ここからの討議はニーズ整理】

事業所内で行われる
検討会議です。

グループ討議のルール

・ グランドルール

- ① **端的に**発言する（最長30秒！）。
- ② **積極的に**参加し、**たくさん**発言する。
- ③ 否定的な発言はしない。**受容的な雰囲気**を醸成する。
- ④ 求められたゴール・課題に向けて発言する。
（自分の興味・関心で発言するのではない！）
- ⑤ **多様な意見**が場に出るようにつとめる。
（自分ばかりが発言しないよう留意する。）
- ⑥ **根拠を持って**発言する。
- ⑦ **時間を守る**（ファシリテーターが時間管理します）。

【グループで共有します】

個人ワークで作成したワークシート2 – ①の内容を共有してください。

- ・「あなたの捉えた本人像」
- ・「あなたが感じたこと／考えたこと」

グランドルール
を守りながら

を**端的に発言**します。

【1名1分×6名＝6分】

【使用するもの】

- ・個人ワークで作成したワークシート2

【グループで共有します（まとめ）】

- ・ 自分の発言
- ・ 他のメンバーの発言

違いがありましたか？

- ・ 人は必ず自分の主観というフィルターを通して世界をみます。
←経験・生活歴、性格、能力、価値観 etc.
- ・ 自分はどのような物のとらえ方をする傾向にあるでしょうか。
- ・ ストレングスの視点で春男さんをとらえることはできましたか？

参考資料

復習 チームアプローチの重要性

演習 1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術

- ・ ケアマネジメント： チーム支援が必須 【基本的視点】
 - ・ 同じ情報と方向を共有
 - ← そもそも複数の人が関わるのがケアマネジメント
 - ・ 多角的・総合的に（≡ひとりよがりにならない）
 - ← 自分は自分の枠組み・傾向の中で捉える
- ・ 何のために？
 - 支援の質の向上
 - = 本人の希望の実現、QOLの向上

演習はまさにチームアプローチです。